

豊田章一郎氏に名誉博士 「学園の発展に尽力」感謝し贈呈



訪米団は後藤学長、森豪
国際交流委員長、櫛田玄一
郎学長補佐ら五人で、九月
三日から八日まで滞在しま

した。
カレッジではクローチ学
長らと懇談し、語学研修を
希望する愛工大生の受け入

愛知工業大学訪米団(団長・後藤泰之学長)が九月六日、訪問先のケンタッキー州・ジョージタウンカレッジとの間で、語学留学生の派遣など包括的な交流協定を結ぶことで合意しました。これで、愛工大の海外友好交流は十大学、二研究機関となりました。関連記事②面に。

語学留学生派遣など推進へ 訪米団が「交流協定の締結」で合意

愛工大とケンタッキー州・ジョージタウンカレッジ



愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:

国際交流推進	2
入試関連	3
サイエンス大賞	4
頑張る名電生など	5
スポーツ	7
学校祭・体育祭	8

発行所

名古屋電気学園
〒464-8540
名古屋市千種区若水3-2-12
Tel (052) 721-0201

名古屋電気学園と愛知工業大学は十一月二十九日、トヨタ自動車名誉会長の豊田章一郎氏に「名誉博士」の学位記を贈りました。昨年の「愛・地球博」に協賛して愛工大が開催した「21世紀・万博大学」名誉学長就任や、愛工大と豊田中央研究所との連携大学院実現など、学園と大学の教育研究に対するご尽力を顕彰するものです。贈呈式は午前十時三十分から愛和会館講堂で行なわれ、後藤淳理事長のあいさつ・経歴紹介に続き、名誉博士の帽子、ガウンなどに身を包んだ豊田氏(写真⑤)に、後藤泰之学長が学位記を贈りました。式後、豊田氏が「魅力ある日本の創造について」と題して特別講演しました。

の生誕百年を記念して十一月十二日、名古屋市西区のホテル・ウェステインナゴヤキャッスルで感謝の集いが開かれました。後藤淳理事長のあいさつに続き、写真による「後藤鉦二先生の軌跡」が正面の大型画面に映し出されました。会場入り口には、「ピンポン外交」のきつかけとなった中国・周恩来首相と握手する写真なども展示され、卓球関係者や学園OBら約百五十人が思い出話に花を咲かせていました。



写真による「後藤鉦二先生の軌跡」を見る参加者たち

名古屋電気学園の基礎を築いた故後藤鉦二前理事長

学園の基礎築いた故後藤鉦二前理事長 生誕百年記念し感謝の集い開く

れについて提案がありました。協議の結果、ホームステイや入寮など実情に合った形で実現していくことで合意、来年度はカレッジから数人が来日するほか、愛工大生の留学についても人選することになりました。

◇ジョージタウンカレッジ

一八二九年創立の四年制大学。男女共学で学生数は約一四〇〇人、文系と理系に計六十七の専攻と副専攻があり、日本語コースも設けられています。学生の多くは、中小学校の教員を目指しています。写真はシンボルタワー。



創立94周年記念して 式典や永年勤続表彰

名古屋電気学園の創立九十四周年記念式典が十一月七日午後、高校北校舎・喬徳館で行われました。後藤淳理事長が「学園の百周年がすぐそこまできました。これもひとえに、教職員の努力と協力のおかげです」などとあいさつしたあと、永年勤続者十五人の表彰が行なわれました(名簿は③面に)。このあと、受賞者を代表して建部英博・工学部都市環境学科教授が「周囲のみなさんの協力があつたからこそ、これまでやって来られました。これから学園のために頑張りましょう」と謝辞を述べました。

国際交流さらに推進

愛工大と友好関係にある米ケンタッキー大や中国・東南大(南京市)との交流が、この秋も活発に行なわれました。また、愛工大名電吹奏楽部や附属中学も国際交流と積極的に取り組んでいます。



今後の交流計画についての協議

◇ケンタッキー大学◇ 愛工大訪米団(団長・後藤泰之学長)の一行五人は九月三〜八日に現地入りし、五日にケンタッキー大学を訪問してトッド学長らと懇談しました。愛工大「耐震実験センター」へのポストドクトラル研究員受け入れ、マイクログリッドに関する共同研究の推進など、今後の交流計画について協議しました。六日に交流協議で合意したジョージタウンカレッジは、車で約三十分の所にあります。

◇東南大◇

易学長が就任後初の来日

易紅・学長を団長とする代表団五人が十一月六日に来日、関東見学のあと、十日午前九時三十分以後藤泰之学長らの出迎えを受けて愛工大を訪問しました。易学長は就任後初めての来日で、本部棟四階会議室での愛工大概要説明に続き、



と交流や懇談会
愛工大学生代表団が訪中
「第十三回愛工大学生代表団」(団長・吉賀憲夫基礎教育センター長)の一行二十三人が九月五日から七日間、東南大などを訪問して日本語科の授業を見学したり学生同士で懇談などで交流を深めました。
学生代表団は吉賀団長ら

日本語科の学生

と交流や懇談会

愛工大学生代表団が訪中

「第十三回愛工大学生代表団」(団長・吉賀憲夫基礎教育センター長)の一行二十三人が九月五日から七日間、東南大などを訪問して日本語科の授業を見学したり学生同士で懇談などで交流を深めました。

学生代表団は吉賀団長ら

と交流や懇談会

愛工大学生代表団が訪中

「第十三回愛工大学生代表団」(団長・吉賀憲夫基礎教育センター長)の一行二十三人が九月五日から七日間、東南大などを訪問して日本語科の授業を見学したり学生同士で懇談などで交流を深めました。

学生代表団は吉賀団長ら

と交流や懇談会

愛工大学生代表団が訪中

「第十三回愛工大学生代表団」(団長・吉賀憲夫基礎教育センター長)の一行二十三人が九月五日から七日間、東南大などを訪問して日本語科の授業を見学したり学生同士で懇談などで交流を深めました。

学生代表団は吉賀団長ら

と交流や懇談会

今後の交流計画について協議しました(写真上)。

このあと地域防災研究センター、耐震実験センター、みらい工房などを見て回り、午後からはトヨタ博物館・名電高校見学、大

学生代表団は 堵国樑・愛工大祭見学 電子科学 与 工学学

院副院長を団長とする学生代表団十二人が十月十四日午前九時三十分すぎ、後藤泰之学長らの出迎えを受けて愛工大を表敬訪問しました。本部棟四階の会議室で愛工大の概要説明を受けたあと、今後の交流計画を協議しました(写真中)。

午後からは地域防災研究センターなど愛工大自慢の

学での特別講義担当の二班に分かれました。

特別講義は王念春・電気工程系教授が行い、テーマは「パワーエレクトロニクス技術による電源装置の工業への応用」でした。

施設を見て回り、開催中の愛工大祭会場へも足を運びました。

附属中の十三人が 豪で「語学研修」 七月三十一日から十九日間、生徒十三人がオースト

名電吹奏楽部がシンガポールの高校と「お礼」のジョイントコンサート

ラリア・ブルーラムでのホームステイに参加しました。英会話のレッスンやスポーツ、ゲームなどで現地の人たちと楽しく交流しました。動物園見学や川下りなどで直接、オーストラリアの文化に触れることができました。新聞社の取材もあり(写真)、記事が掲載されました。



名電高校吹奏楽部がことし七月、シンガポール政府

教員二人と職員一人、それに学生男女各十人。

一行は六日午前に東南大を訪問、大礼堂前で恒例の記念写真を撮影した後(写真下)、九龍湖の新キャンパスへ移動しました。新

キャンパスでは、日本語科の学生が受講している授業を見学したあと、懇談会に参加して交流。南京市では夜、歓迎宴と学生交流会に参加しました。

などの招待を受けて演奏旅行した際、ホームステイなどでお世話になったメリディアン高校の三十四人が来日、その時の「お礼」を込めた国際交流ジョイントコンサートが十二月九日午後、名古屋市昭和区の県勤労会館で開かれました。伊藤宏樹顧問は「短期間にこれほどうち解けるものかと感心するほど、部員同士が仲良くなりました」と国際交流の重要さを実感。楽器の演奏方法などを指導し、交流会も開きました。

グループ校に関心高まる

愛工大・ACE・名電・附中

説明会など人気上昇中！

受験生や保護者らに学校の内容をしっかりと伝え、受験の参考にしてもらおうと、ことしも名古屋電気学園の各設置校では合同展参加や説明会、体験入学などを実施し、大勢の児童・生徒らが訪れました。

【2007中部の私立大学展】9月17日と18日、名古屋市熱田区の名古屋国際会議場イベントホールに東海4県の大学・短期大学77校が参加して開かれました。愛工大ブース（写真①）では、学生制作の自律走行2輪車



などを展示し、設計から完成までをモニターで放映するなど受験生たちに「ものづくりの楽しさ」をPRしました。

【学校説明会】愛工大情報電子専門学校（ACE）では12月



はじめまでに9回開催（写真②）し、概要説明のほかCADなどの授業体験を通して高い技術力をアピールしました。また愛工大名電では、



8～12月に計4回開催（写真③）。学校概要や入試制度の説明、進学する大学の選び方などについて中学生や保護者らに分かりやすく説明しました。附属中も4



回の開催（写真④）で、中高一貫6年教育の利点と大学合格に的を絞ったカリキュラムなど、教育強調していました。

入試シーズン到来！



来春の高校卒業予定者を対象とした愛工大入試が十

月二十四日、愛工大名電高生対象の推薦入試でスター

「名電推薦」で本格スタート

トしました（写真⑤）。この日受験したのは普通科、理工コース、中高一貫コース、専門学科から約百六十人。午前九時三十分から入

「中高大」合同で入試説明会を開く

愛工大、愛工大名電、愛工大附属中合同の平成十九年度入試説明会が九月二十日、名古屋市中区の名古屋ガーデンパレスに塾関係者ら約百五十人を招いて開かれました（写真⑥）。

各校担当者は、教員や施設など受け入れ態勢の充実を力を入れていける現状や私学の厳しい環境などを詳しく説明、入試での名古屋電気学園関係各校に対する理解と協力を求めました。中学は中高六年一貫教育の推進など、高校も「高大七年一貫教育」を目指した五コースの新学科設置などをPR。大学も高い就職率や役員ランキングなど「大学力」でアピールしました。

試験担当者の説明があり、受験票や顔写真のチェックなどに続き、希望する学科へ出向いて担当教員の面接を受けました。

日泰寺で学園物故者法要

亡くなった学園関係者を慰霊する平成十八年度学園物故者法要が十一月七日、創立94周年記念式典に引き続き、名古屋市千種区の覚王山日泰寺本堂でしめやかに営まれました。ことし亡くなった八人の親族をはじめ、学園教職員や学生・生徒ら約二百人が参列。読経の流れる中、次々と祭壇に進んで焼香し、故人の冥福を祈っていました。また参列者の一部は、日泰寺霊堂近くにある学園墓地も参拝し、慰霊碑の前で手を合わせていました。

◇永年勤続で表彰されたみなさん

【勤続35年】(大学) 建部英博、渡辺修、奥村哲夫、新宮博康、松本壮一郎

(高校) 平田俊之

【勤続25年】(大学) 水谷充

(高校) 倉野光生

【勤続15年】(大学) 丸山道弘

(高校) 西浦禎人、板倉将昭、竹内美佳
(学園) 安達加奈代、吉田達夫、山田行政

第5回A I Tサイエンス大賞の発表会・表彰式

合同研究含め七校に優秀賞

パネル展示では高校同士の交流も

東海四県の高校生を対象に、「自然科学」と「ものづくり」の二部門で授業や部活での研究成果を顕彰する第五回「A I Tサイエンス大賞」の発表会・表彰式が十一月十八日、10号館一、二階の大講義室やA I Tプラザ一階フロアなどで開かれました。

自然科学二十三研究、ものづくり二十研究と、両部門に過去最多の四十三研究がエントリー。午前中は大講義室でのステージ発表、午後からはプラザでのパネル展示による発表があり、出展校同士の交流も活発に行なわれました。

ステージ発表では、各校発表チームが一研究五分の制限時間をフルに使い、動



森エクステンションセンター長の総評

画や写真を効果的に活用して研究成果をアピールしました。午後三時三十分から自然科学・正木和明教授、ものづくり・小嶋憲三教授の両部門審査委員長による講評が行なわれ、自然科学部門は四校（二校の共同研究を含む）、ものづくり部門は三校の優秀賞や奨励賞、努力賞などが決定。賞状やトロフィーなどが受賞校代表に贈られました。最後に、森豪エクステンションセンター長が「今回の成果を受け継ぎ、来年もいい研究を出展してください」と締めくくりました。



動画などを使って行なわれた研究発表風景

第5回A I Tサイエンス大賞受賞校一覧

		学校名	テーマ	
自然科学部門	優秀賞	岡崎高校 (愛知)	衝突と音エネルギー	
		岐山高校 (岐阜)	球状星団の空間分布図作成 ～公共天文台を利用した変光星観測～	
		一宮高校 (愛知)		
	奨励賞	岐阜北高校 (岐阜)	インゲンにおけるNO ₂ 被害発現の生理的メカニズムの解明	
		菊里高校 (愛知)	アントシアニンについて	
		大垣南高校 (岐阜)	南高周辺におけるジャンボタニシについて	
		岡崎高校 (愛知)	演示実験におけるテルミット反応の最適混合比の検討	
		武義高校 (岐阜)	鶴形山のヒメハルゼミ2006	
	ものづくり部門	優秀賞	愛工大名電高校 (愛知)	顔面測定器
			愛教大附属高校 (愛知)	LEDを使ったプラネタリウムの製作
半田工業高校 (愛知)			かご形誘導電動機の原理モデルの製作	
奨励賞		浜松工業高校 (静岡)	極限作業用人型ロボットの基礎研究	
		津工業高校 (三重)	橋梁デザインにおける構造強度の検討について	
		津島高校 (愛知)	ロケット解体新書	
		佐織工業高校 (愛知)	ワイパーモーターで走るエコカー開発 竜巻発生装置「風神」の製作	

努力賞【自然科学部門】 四日市西高校(三重) 矢合川の魚たち▽犬山高校 (愛知) ヒメタイコウチを守れ! 2、ヒメヌマエビの不思議▽小牧南高校 (愛知) 地盤の液状化に伴う噴砂現象▽岐阜北高校 (岐阜) 身近なものを使った科学研究～科学を学ぶ方法論的实践～▽半田高校 (愛知) 植物の土壌浄化能力▽津島高校 (愛知) 光の中の色▽一宮高校 (愛知) 谷川の水はなぜ青緑色なのか、非電化冷蔵庫の研究▽恵那高校 (岐阜) 二畳紀末の頁岩中に含まれる炭素量の測定、阿木川の定点における水生昆虫を指標とした水質検査▽明和高校 (愛知) 手作り電池の研究▽吉城高校 (岐阜) 学校周辺の地質・地層について▽岐山高校 (岐阜) 和算の数理・特に油分け算の数理について

【ものづくり部門】 豊橋西高校(愛知) クワの木から紙を作る▽関商工高校 (岐阜) リモコン制御の虫型ロボットの制作▽愛知工業高校 (愛知) 情報通信型高輝度LED信号機の活用、形状記憶合金を用いたロボット制御～動作音がしない小型軽量義手ロボット～▽島田工業高校(静岡) LEGOMINDSTORMSによるロボット製作1～3、探査ロボットの製作、MCRの製作活動、マイコンカー製作▽一宮高校 (愛知) コンピュータの内部計算を再現してみました、ドライアイスを使った大型霧箱の製作

「情報」で頑張る愛工大名電生

「パソコン甲子園」で一・二位独占

情報処理技術などを競い合う高校生による「パソコン



グランプリを獲得、表彰状を受ける谷君

ン甲子園二〇〇六（全国高校パソコンコンクール）が十一月十一、十二日、福島県会津若松市の会津大学で行なわれました。デジタルコンテンツ部門では、情報科学科情報デザインコース・岡田陽介君と谷幸一郎君製作の「ホスピスロボット『EASE』」がグランプリ、小澤玲さん、水野友香さんの「赤ちゃんロボット『KAGUYA』」が準グランプリに輝き、プログラミング部門でもシステム

コースの平野佑樹君、荒川祐真君が矢沢久雄賞（審査員特別賞）を獲得しました。この大会には、全国四

デザイン選手権では文部科学大臣賞獲得

山形市の東北芸術工科大学で十月二十二日、全国三



賞状を手に喜ぶ岡田君ら

百八十六チームから予選を勝ち抜いた四十チームが出場。孤独死をテーマにしたCG「ホスピス」は、技術力と表現力の両面で審査員の高い評価を得ました。

百七チームの代表十二チームが出場して「第十三回全国高校デザイン選手権大会」が開かれました。審査の結果、情報デザインコースの岡田陽介君、高山舞菜さん、中島宏美さんが、平和への祈りをこめて制作した「レインボー・フラワー・プロジェクト」が文部科学大臣賞を獲得しました。

若者に科学の面白さや大切さを伝え、「理科離れ」現象に歯止めをかけようと、愛知工業大学では高校の教員や生徒らを対象に講演会開催やイベント出展など、積極的な取り組みを進めています。

ストップ・ザ「若者の理科離れ」

遠藤守信・信州大学教授が特別講演

特別講演会は九月二十九日午後四時から、名古屋市中区錦三の名古屋国際ホテル二階「国際ホール」で開かれました。講師は、カーボンナノチューブの研究で知られ、愛工大の客員教授でもある信州大学工学部の遠藤守信教授。遠藤教授は「今、なぜ技術者を目指す



講演する遠藤教授

のか」と題し、約四百五十人の聴衆に「ナノ（十億分の一）」の技術を分かりやすく説明。若者の「理科離れ」については「中学生の宿題時間は世界最短、テレビを見る時間は世界最長」という日本の現状などをデータで示した上で「日本が世界と競争していくためには、百万人の科学者が必要といわれているのに、現状は五十万人以下。これからは日本には、『改善』では

なく『革新』を可能にする想像力豊かな科学者が必要です」と結びました。

栄ビルで開かれた理工系大学の「マナビLIVE」



豊田で六大学が合同し理工系学部説明会開く
豊田市の豊田産業文化センターで九月十日午後、はじめての「理工系学部合同説明会」が開かれました。愛工大、名古屋工業大、名城大、豊橋技術科学大、静岡大の計五大学が参加。大学のブースでは、来場者との個別相談のほか、特別講演「からくりとロボット」や「理工系の選び方」の紹介もありました。

名古屋・栄ビルでは「マナビLIVE」

名古屋市中区の名古屋栄ビルディングで十月二十一日、愛工大、岐阜大、大同工大、中京大、中部大、名古屋工業大、南山大、名城大、名古屋大（資料参加）の計九大学が出展して「東海地区理工系大学マナビLIVE in 名古屋2006」が開かれました。

愛工大のブースでは、工学部機械学科・戸伏壽昭教授の研究室が形状記憶合金の面白さを伝える機材を持ち込み、来場者たちに実験を披露。また個別相談ブースも設けられ、大勢の高校生らが訪れました。

「21世紀を支える材料開発」の成果発表 愛工大で国際シンポジウムが開く

国際シンポジウム「愛知工業大学学術フロンティア事業最終報告会」が十月十一日から三日間、12号館や総合技術研究所などを会場に開かれました。平成十四年度の文部科学省・私立大学学術高度化推進事業として「学術フロンティア推進事業」に採択され、五年計画で愛工大を中心に研究を進めてきた「二十一世紀を支えるための材料の開発」(プロジェクト代表・稲垣道夫工学部応用化学科教授)が最終年度に入り、研究成果を発表することに

なつたものです。

研究は「環境」「エネルギー」「情報」の三エネルギーグループに分れて行な



国際シンポジウムで成果を発表する研究担当者

われ、愛工大をはじめ名古屋大、北海道大、福井大、大分大のほかフランス、カナダ、チェコ、ポーランド、インド、タイ、スロベニア、中国、韓国の研究者が参加しました。

シンポジウムは、プロジェクト代表の稲垣教授が研究概要を報告したのに続き、環境グループ、エネルギーグループ、情報グループ

吹上ホールの産学交流フェアに出展 愛工大 ナゴヤドームの建設技術フェアも

○：産官学が協力し、知財開発や新技術・新製品の紹介、研究内容などを展示する複合イベント「産学交流テクノフロンティア」が四十八人で最も多く、次いで建設業の三十三人、情報通信の二十七人などの順。海外は、中国・蘇州の金型関係一人でした。

支援センターでは、社会人としての心構えを身につけ、職場でのコミュニケーションづくりをスムーズに行ってもらおうと、昨年度から学生に「ビジネスマナー講習会」の受講を指導しており、今回は百二十六人が受講しました。

の順に研究報告が行なわれました。十二、十三日は総研や附属図書館視聴覚室を会場に、「分析法のゼロミッション化および新規光触媒の開発」「カーボン材料と環境・エネルギー」「電池材料へのフッ素化学とCVDの応用」「非線形光学材料の作成と評価」をテーマに、サブセッション討論が行なわれました。

村栄治研究室、工学部紹介コーナーのブースを出展しました。地域防災研究センターでは、気象庁からの「緊急地震速報」をいかに企業に伝え、被害を食い止めるか産学連携で研究している結果をデモ展示。中村研究室は、癒し系ロボットを改良した「ゴキブリ型」の自走式小型ロボットなどを出展しました。

○：ナゴヤドームで十一月八、九日の二日間、「建設技術フェア二〇〇六 in 中部」が開かれ、愛工大の耐震実験センター、地域防災研究センターと姉妹校の愛知工業専門学校が出席。耐震、免震などの最新技術や緊急地震速報を活用した到達時刻・震度予測技術などをPRしました。

愛工大の夏季インターンシップ

88社と学生のマッチングが成立



インターンシップ支援センターでは八月から九月にかけて、夏季インターンシップを開催しました。学部二年生から大学院生までの計百四十一人が参加、学生の希望とマッチングが成立した八十八社で作業実習などが行われました。写真。参加学生を企業の分野別で見ると、食品や電気・電子、精密機械などの「製造



吹上ホールでの産学交流テクノフロンティア



ナゴヤドームで開かれた建設技術フェア

スポーツ情報コーナー

初優勝を後藤学長に報告



大学ヨット部が創部初の総合優勝

蒲郡市の海陽ヨットハーバーで9月30日～10月1日に行なわれた平成18年度秋季中部学生ヨット選手権大会で、1962年の創部以来はじめての総合優勝を果たし、11月1日～5日に福岡市西区の小戸ヨットハーバーで開かれた全日本学生ヨット選手権大会（インカレ）へ初出場しました。

中部学生選手権では、「470」クラスで愛知と静岡県との4大学中2位に入り、「スナイプ」クラスでは7大学中6位だったものの総合得点ではトップ。この結果、「470」クラスのインカレ出場が決まり、部員16人とOB会の市川泰敏会長、新野武司副会長が10月25日午後、後藤泰之学長と稲垣慎二副学長に初優勝などの報告をしました。

洋弓選手権で大学・松井選手が準優勝

第48回全日本アーチェリー選手権大会兼第44回世界選手権一次選考会が10月27～29日、山口市名田島の山口南総合センターグラウンド特設会場で行なわれ、大学工学部電気学科3年の松井寛和選手が準優勝しました。予選14位で決勝トーナメントに進んだ松井選手は、準決勝で近畿大の栗栖正臣選手を108-105で下したものの、決勝で古川高晴選手（近畿大）に98-107で敗れました。

愛産大に2連勝して1部残留決める

愛知大学野球1部秋季リーグで5位に終わった愛工大チームは、11月4日に中京大学グラウンド、5日に豊田運動公園野球場で2部2位の愛知産業大学との入れ替え戦に臨みました。この結果、初日は4-0、2日目は3-0と愛産大を連続完封で退け、1部リーグ残留が決まりました。

卓球全日本の西飯コーチがTV出演

卓球の全日本ナショナルチーム強化コーチなどを務める愛工大卓球部の西飯徳康総監督（大学事務局参事）が、12月24日放映のCBCテレビ「がんばれ！ペナキッズ」に出演します。お笑いタレントのペナルティが進行役で登場する毎週日曜午後1時24分からのローカル30分番組で、3組の親子が得意のスポーツで対決するものです。収録は11月25日午後、小体育館の練習場で行なわれました。一定時間内に親子で何回ラリーを続けられるか競ったあと、3組が順番に西飯総監督の“猛烈カットサーブ”受けに挑戦しました。

区間	愛工大A		愛工大B	
	選手名	タイム	選手名	タイム
1区(8.5km)	山内広幸④	26分49秒☆	柴田雅也②	26分51秒
2区(10.6km)	清水翔太②	32分43秒	中村昌利③	33分33秒
3区(8.1km)	山村圭介①	26分06秒	吉田士恩②	25分54秒
4区(8.3km)	鳥羽邦彦②	28分10秒	市野雄也②	28分20秒
5区(10.3km)	田中智博①	32分51秒☆	坂本諒平③	34分35秒
6区(9.3km)	野村真司③	29分08秒☆	川野幸大③	30分32秒
7区(8.4km)	中嶋 章④	26分00秒☆	金谷将史①	26分41秒

記録一覧（マル数字は学年）

中嶋選手のゴール（中日新聞提供）



第六十八回東海学生駅伝が十二月三日、知多半島を一周する七区間、63・5kmで行われ、愛工大Aが3時間21分47秒で三年ぶり六回目の優勝を飾りました。オーブン参加の愛工大Bも、五位の好記録をマークしました。17秒差の二位でタスキを

第68回東海学生駅伝競走大会で三年ぶり六回目の優勝決める

受けたアンカー・中嶋章選手は、4km付近で首位の名大Aをとらえて一気に抜き去り、最後は二位に38秒差をつける区間賞の走り逆転優勝しました。一区山内広幸選手がトップを奪ったものの、その後野村真司両選手が区間賞の快走で盛り返しました。有田哲治監督は「来年十月の出雲全日本大学選抜では、一つ上を目指して頑張りたい」と、三年前十六位の雪辱を誓っていました。

松井以来の3大球団指名名電・堂上が中日へ入団



高校生を対象としたプロ野球新人選手選択会議（ドラフト）が九月二十五日午後二時から、東京都内のホテルで開かれました。今ドラフトの目玉、愛工大名電の堂上直倫内野手は、一巡目に巨人・阪神・中日の三

球団から指名され、抽選の結果、中日が交渉権を獲得しました。米大リーグ・松井秀喜選手のドラフト時以来という「3大球団指名」となった堂上選手は結局、父・照さんや兄・剛裕さんが在籍する中日ドラゴンズへの入団が決まりました。名電高校OBのプロ野球選手は二十二人目です。桜井正一校長、倉野光生監督と記者会見した堂上選手（写真）は「兄とはライバルとして力を競い、一日も早く自分の野球ができるよう頑張ります」と話していました。

そろいのシャツで応援席も盛り上がる学校祭



名電体育祭での玉入れ



九月二十二日、講堂兼体育館・喬徳館や教室を会場に開かれました。「熱血・

気合・ド根性」がテーマで、喬徳館ではダンスやパラ、楽器・和太鼓演奏などで練習成果を競いました。多目的

◇名電学校祭◇

学校祭や体育大会…秋盛ん!

ダンスバトルやお笑いライブなどで賑わうステージ



「スケッチブックくみんなの色でうめつくそう」を

テーマに十月十四、十五日を中心に開催されました。メイン会場のセントラル広場には焼きそばなど模擬店のテントが並び、ステージではダンスバトルやお笑いライブなど多彩なイベントが繰り広げられました。十五日午後には、講堂兼体育館・鉦徳館で土屋アンナコンサートも開かれて盛り上がりました。また「工科展」も愛和会館で開かれ、二足歩行ロボットや自律走行二輪車など「学生の技術力」が披露されました。

◇愛工大祭◇

◇愛工大駅伝◇

二十六回大会は十一月九日に開かれ、八草キャンパス周回コースで熱戦を繰り広げました。「オーブンコースの部」、「学科・専攻交流の部」、「選手権の部」が順次行なわれ、大学に近い大畑小五(六年児童三十九人もリレーで特別参加しました(写真))。大声援をバックに、子供たちは真剣な表情でバトンをつないでいました。



子などを紹介するコーナーもつくられました。

◇名電体育祭◇

九月二十八日に、名古屋市のレインボーホールで開催されました。オレンジ、ピンク、ブラックなどの六ブロックに分かれ、綱引きや玉入れ、大縄跳び、ぐるぐるパトリレーなど趣向をこらしたゲーム感覚の競技でスピードとテクニックを競い合いました。

◇附中学校祭◇

中高一貫コースになって七回目のことしは、「明日に向かって」をテーマに九月二十三日、愛名館や各教室を会場に開かれました。午前九時三十分から各教室で展示やイベントが始まり、靴の大きさや身長などクラスメートをランキング



附中学校祭で人気を集める保護者会の模擬店

形式で紹介する「附中一貫ギネス」、細かい色紙を七千枚も張り合わせた『イチロー』『ロナウド』などの画像も展示。また、保護者による模擬店ではおにぎりやとりの唐揚げなど、手作りの料理が販売され、大勢の人たちが中庭のテーブルで昼食を楽しみました。

編集後記

木村拓哉、「キムタク」といえば「踊りと歌のSMA P」ということになるのでしょうか、最近、評価が少々変わってきたようです。▼映画「武士の一分」での演技が抜群で、「『キムタク』のイメージが覆るほど」とほめちぎる「映画評論家」がいます▼幸か不幸か編集子はこの映画をまだ見ていませんが、もし評判通りだとしたら、彼の演技を指導した山田洋次監督の「教育力」が素晴らしいということでしょう▼本人すら気が付かなかった能力を引き出すのは、まさに教育現場の「原点」と言っていないと思いません▼少子化傾向に歯止めがかからず、理科離れの抜本対策も見えて来ない今、工科系大学の教職員に求められるのは、この「指導力」ではないでしょうか▼「大学の時代」といわれる時、「少子化」と「理科離れ」など「悪い時代のせい」という言い訳がよく聞かれます▼当然のことですが、現状打開のために「何をしてきたのか」「これから何が必要なのか」の議論がなければ、展望は開けません(柳)